



財コンサルティングは「5つの約束」の中でクライアントの「口座開設来からの総入金金額と総出金額」と「預かり時価総額」「顧客数」を公表しております。直近のデータを公表するとともに2018年6月29日に金融庁より発表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」に示された3つの指標についても公表致します。

## 口座開設来からの総入金金額と総出金額

(2019年3月末 現在)

総入金金額 **265.46** 億円

総出金額 **22.29** 億円

頻繁に商品を乗り換えず、継続さえすれば、多くの場合資産形成は成就されています。そして、リスクを抑えることができる「少額投資」「分散投資」「積立投資」「長期投資」を推奨することで、投資初心者でも容易に投資運用を始め、かつ継続することができると財コンサルティングは信じています。私どもの理念に賛同していただいた多くのクライアントが投資を実践されているため「総入金金額」に比べ「総出金額」が極めて少ない状態になっています。

## 預かり時価総額

預かり時価総額

**291.35** 億円  
(2018年9月末 現在)

→ **296.02** 億円  
(2019年3月末 現在)

**↑1.6% 増加**

当社の預かり時価総額は2018年9月末時点に比べ1.6%増加致しました。当社が推奨するポートフォリオは「わかりやすいポートフォリオ」を心がけており、ポートフォリオの組み入れ銘柄の入れ替えは最小限としています。

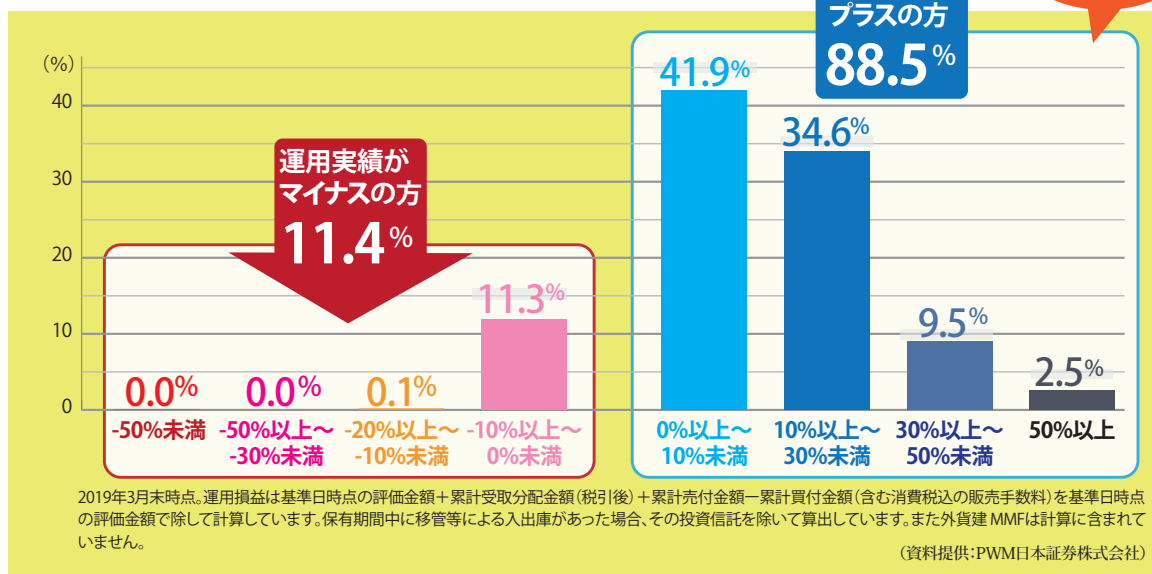
## 顧客数

(2019年3月末現在)

顧客数 **16,190** 人 (保険契約のみの顧客数も含まれます)

当社の顧客数は2013年に初めて1万人を超えて以降、順調に推移しています。また、資産形成期の顧客が大半を占めており、若年層が多いと言えます。

## 運用損益別顧客比率 (共通 KPI)

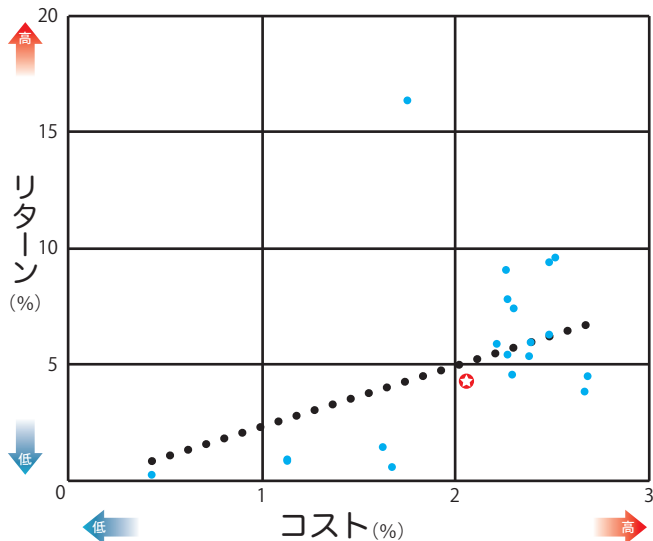


上図にあるように2019年3月末時点で当社に口座を有するクライアントの運用成果を計算すると0%未満が11.4%、逆に88.5%のクライアントがプラスの運用実績となっています。当社は創業時から長期・分散・積立投資を若年層に提案し続けております。「運用損益別顧客比率」の結果も長期・分散・積立投資がいかに資産形成に有効であるかを示すものであると言えます。またこのマイナスの運用実績のクライアントの運用開始時期を見ますと、比較的最近に投資を開始された方が多く、短期的な市況の影響を受けたものと推測されます。

預かり残高上位20銘柄のコスト・リターン/預かり残高上位20銘柄のリスク・リターン(共通KPI)

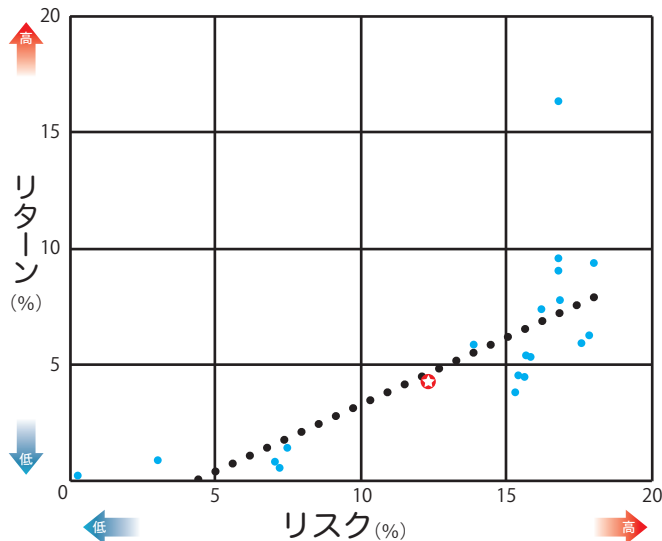
基準日2019年3月末現在

預かり残高上位20銘柄のコスト・リターン



●●●●●●●●●● 図の点線は回帰直線  
資料提供:PWM日本証券株式会社

預かり残高上位20銘柄のリスク・リターン



●●●●●●●●●● 図の点線は回帰直線  
資料提供:PWM日本証券株式会社

★ 残高加重平均値	コスト	リターン
	2.06%	4.26%

★ 残高加重平均値	リスク	リターン
	12.32%	4.26%

預かり残高上位20銘柄の詳細(共通KPI)

基準日2019年3月末現在

1 グローバル・ボンド・ポート (Cコース)	11 グローバル・ボンド・ポート (Dコース)
2 フィデリティ・米国優良株・ファンド	12 ダイワ・バリュー株・オープン (底力)
3 JPMザ・ジャパン	13 インベスコ ジャパン・エンタープライズ・オープン
4 フィデリティ・欧州株・ファンド	14 フィデリティ・日本成長株・ファンド
5 三菱UFJ海外債券オープン (3ヵ月決算型) (四季の恵み(海外債券))	15 DLIBJ公社債オープン (短期コース)
6 メロン世界新興国ソブリン・ファンド (育ち盛り)	16 フィデリティ・アジア株・ファンド
7 エマージング株式オープン	17 シューダー・エマージング株式ファンド (1年決算型)
8 ワールド・リート・オープン (毎月決算型)	18 Jオープン (店頭・小型株)
9 ブラックロック・USベーシック・バリュー・オープン	19 【アパティーン・スタンダード・ファンド・セレクション】 海外高格付け債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)
10 アジア製造業ファンド	20 日本株・アクティブ・セレクト・オープン